

桐朋

アカデミー・オーケストラ

2012秋季

コンサート・スケジュール



9.28 (金)

桐朋アカデミー・オーケストラ

第45回 定期演奏会

〈バイエルン放送交響楽団のメンバーを迎えて〉

オーバード・ホール 開演19:00

指揮/クリストフ・ヴィネケン (元ベルリン放送交響楽団コンサートマスター)

ヴァイオリン独奏/アントン・バラコフスキー (バイエルン放送交響楽団首席コンサートマスター)

スメタナ: 歌劇「売られた花嫁」序曲

チャイコフスキー: ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 作品35

ドヴォルザーク: 交響曲 第9番 ホ短調 「新世界より」 作品95

入場料2,000円 (全席自由/友の会会員・学生・生徒・児童 無料)

10.20 (土)

桐朋学園大学院大学 桐朋アカデミー・オーケストラ

協奏曲のひととき

オーバード・ホール 開演15:00

指揮/円光寺雅彦 (桐朋学園大学院大学特別招聘教授)

独奏/桐朋学園大学院大学生

※独奏者と演奏曲目は9月に実施する学内オーディションを経て決定されます。

入場料1,000円 (全席自由/友の会会員・学生・生徒・児童 無料)

11.18 (日)

桐朋アカデミー・オーケストラ

特別演奏会

オーバード・ホール 開演15:00

指揮/デリック・イノウエ (ニューヨーク・メトロポリタン・オペラ指揮者)

チェロ独奏/堤 剛 (桐朋学園大学院大学学長)

シューマン: チェロ協奏曲 イ短調 作品129

シューベルト: 交響曲 第8番 ハ長調「グレート」 D.944

入場料3,000円 (全席自由/友の会会員・学生・生徒・児童 無料)

※演奏曲目・出演者等は変更になる場合もあります。演奏会等に関する最新情報は、本学ホームページ (<http://www.tohomusic.ac.jp>) をご覧ください。

※オーバード・ホールは、JR富山駅北口そばです。

※チケットは、8月1日(水)より下記プレイガイドにて一斉発売予定。有料の演奏会につきましても、桐朋オーケストラ・アカデミー友の会会員・学生・生徒・児童の皆様は、無料でご入場いただけます。

チケット販売所 桐朋学園音楽部門富山キャンパス事務室、北日本新聞文化センター、アスネットカウンター (オーバード・ホール1F)、ミヤコ楽器店

主催/桐朋オーケストラ・アカデミー、桐朋学園大学音楽学部、桐朋学園大学院大学、(公財)富山市民文化事業団、富山市、富山市教育委員会、(株)北日本新聞社 後援/富山県、(社)富山県芸術文化協会
 〈お問い合わせ〉〒930-0138 富山市呉羽町1884-17 桐朋学園音楽部門富山キャンパス事務部演奏課 Tel.076-434-6800

桐朋アカデミー・オーケストラ

2012秋季コンサート・スケジュール



指揮／クリストフ・ヴィネケン

ベルリン音楽大学、デトモルト音楽大学、オースチン大学音楽学部（アメリカ/テキサス州）卒業。これらの音楽大学でアンドアトース（ガラミアン派）、ジョージ・ナイクルグ（ドゥニス派）に師事したことが重要で、このことがヴィネケンの方向を決定した。その後、ベルリン放送交響楽団のコンサートマスターを務めた後、ベルリン・フィルに呼ばれ、さらにはハノーファー北ドイツ放送管弦楽団の第一コンサートマスターを務める。管弦楽団の一員としての活動と並行して、数多くのラジオ放送のための録音、ソロ・リサイタルを行うと同時に、ベルリン・ストリング・トリオ、ヴァルトシュタイン・ピアノ・トリオ、オルフェオ・カンマー・ゾリステンとともに国内外で演奏会を開く。第一コンサートマスターおよび、ソリストとして20年近く活動した後、若手音楽家の育成に重点を移し、指揮が活動の中心となっていく。そして、全ヨーロッパ、北米、南米、アフリカ、日本、韓国、中国、タイ、CIS諸国に呼ばれて、指揮活動を行う。これまでのハノーファー北ドイツ放送管弦楽団、シュトゥットガルト管弦楽団、カトヴィツェ・シレジア管弦楽団での指揮、またタベア・ツィンマーマン、クラウドディオ・ボホーケス、アーロン・ローザンドなど世界をリードする音楽家たちとの仕事は、数多くのレコーディングに残されている。この他にもヴィネケンは、アビトゥーア（大学入学資格）前の才能ある若き逸材の育成と支援にも尽力している。この背景には、数多くのCDや放送用レコーディングで素晴らしい成果を挙げているバーデン＝ヴュルテンベルグ州ユース・オーケストラがある。ヴィネケンは30年あまり前にこのオーケストラが設立された当初から芸術監督を務めている。2003年には、若手養成活動に熱心に取り組みバーデン＝ヴュルテンベルグ州ユース・オーケストラを30年以上にわたって指導してきた功績が認められ、当時のヨハネス・ラウ大統領よりドイツ連邦共和国功労勲章功勞十字小綬章が授与された。ヴィネケンは、ドイツ、ポーランド、アメリカ、アルゼンチンの音楽大学にも協力関係を広げ、1991年からはフライブルグ音楽大学室内楽専攻でも非常勤講師として教え、同時に武蔵野音楽大学にも客員教授として招かれた。

9.28(金) 第45回 定期演奏会



ヴァイオリン独奏／アントン・バラコフスキー

ヴァイオリン教師のマトヴェイ・リバーマンはバラコフスキーの特別な音楽的才能を認め、ミハイル・グリムカ音楽専門学校での勉学を支えた。19歳以降はドイツに在住し、マーク・ルボツキーやコリャ・ブラッハーと共にハンブルクの音楽学校で学んだ。1997年にニューヨークで「ヤング・コンサート・アーティスト賞」を獲得した後、ジュリアード音楽院で学ぶ奨学金を受け、ドロシー・ディレイとイツァーク・パールマンの教え子として学んだ。この時までに、既に大きな賞をいくつか勝ち取っている。「コンチェルティノ・プラガ」ラジオ・コンクールでの受賞が12歳。13歳の時には北京で行われた国際コンクールで入賞している。1990年には、モスクワで行われたチャイコフスキー・コンクールで第4位、1994年にはハノーファーで行われたヨーゼフ・ヨアヒム・コンクールで第2位に入賞した。サントパテルブルグ・フィルハーモニーおよびロシア・ナショナル管弦楽団（ミハイル・プレトニョフ指揮）、北ドイツ放送交響楽団（アルノルト・エストマン指揮）、ハンブルク州立フィルハーモニー管弦楽団（ウォルフガング・サヴァリッシュ指揮）など、多数の一流オーケストラで演奏している。ニューヨークの「コフマン・コンサートホール、カーネギーホール（Weill Hall）、リンカーン・センターのアリス・トゥルー・ホール等」でリサイタルを行った。1999年には、セルゲイ・プロコフィエフの「2つのヴァイオリンのためのソナタ」をCD録音のためにヴァイオリン奏者ワディム・レービンのデュエット・パートナーとして演奏、ERATO レーベルでリリースされた。2001年から2009年までは、ハンブルク州立フィルハーモニー管弦楽団の首席コンサートマスターを務めた。2009年10月から、バイエルン放送交響楽団の首席コンサートマスターを務めている。



指揮／円光寺 雅彦

桐朋学園大学指揮科卒業。指揮を斎藤秀雄、ピアノを井口愛子の各氏に師事。1980年、ウィーン国立音楽大学に留学し、オトマール・スウィトナーに師事。1981年に帰国後、東京フィルハーモニー交響楽団副指揮者に就任。1986年より1991年まで同交響楽団指揮者を務める。1989年より1999年まで仙台フィルハーモニー管弦楽団常任指揮者としてオーケストラの発展に貢献し、その実績は高く評価されている。東京特別公演のライブをはじめ、仙台フィルとの演奏は多数CD化されており、その演奏からも両者の密接な関係を伺う事が出来る。1998年より2001年まで札幌交響楽団正指揮者を務め、2000年には、東京公演を指揮し好評を博した。他に、NHK交響楽団、読売日本交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団などに客演し、活動範囲を広げている。海外では、1992年ブラハ交響楽団への客演をはじめ、1994年BBCウェールズ交響楽団、1995年にはベルゲン・フィルハーモニー管弦楽団、1998年1月にはフランス・ブルターニュ管弦楽団に客演し、それぞれの地で、多くの聴衆を魅了した。国際的指揮者として、現在最も期待されている。2011年4月より名古屋フィルハーモニー交響楽団正指揮者に就任。

10.20(土) 協奏曲のひとつとき



指揮／デリック・イノウエ

カナダ生まれの指揮者デリック・イノウエは、オーケストラの指揮とオペラの世界の両分野において輝かしい成果を挙げている。2003年にメトロポリタン・オペラでベルリオーズ作曲「ベンヴェヌート・チェルリーニ」の新演出を指揮しデビューを飾って以来、プッチーニ「トスカ」、ドニゼッティ「ドン・パスクアーレ」、ベルリオーズ「ファウストの劫罰」、ワーグナー「ワルキューレ」などを指揮、2006-07年シーズンにはセントラルパークで「椿姫」を4公演指揮している。2001年から2003年は、ニュルンベルグ・オペラのファースト・カペルマイスターを務めた。またシュトゥットガルト・オペラ、イングリッシュ・ナショナル・オペラ、ハンガリー・ステート・オペラ、ブカレスト・オペラとも共演。その他、ライブ・ツィヒ放送管、モンテカルロ・フィル、フィンランド放送管、アイルランド・ナショナル響、フロリダ・フィル、ホノルル響、セント・ルークス管、トロント響、ナショナル・アーツ・センター管、バンクーバー響等と共演。また、ニューヨーク・シティ・オペラ、バンクーバー・オペラにはたびたび客演、また、カナダのレジナ交響楽団の音楽監督も歴任した。日本においては、これまでに、新日本フィル、大阪フィル、日本センチュリー管、京響、兵庫芸術文化センター管、仙台フィル、札幌、広響、群響、サイトウ・キネン・フェスティバル松本に招かれている。2006-07年シーズンには、広島オペラ協会の「フィガロの結婚」を指揮した。桐朋学園で小澤征爾、秋山和慶、尾高忠明の下で指揮を学び、その後、ラインズドルフ、フェラーラに師事。1985年にはヴィットリオ・グイ指揮コンクール（フィレンツェ）で優勝している。

11.18(日) 特別演奏会



チェロ独奏／埴 剛

幼少から父に手ほどきを受け、1950年に8歳で第1回リサイタルを開いた。桐朋学園子供のための音楽教室、桐朋学園高校音楽科を通じ斎藤秀雄に師事し、1956年に文化放送賞、翌1957年に第26回日本音楽コンクール第1位および特賞を受賞。1961年アメリカ・インディアナ大学に留学し、ヤーン・シュ・シュタルケルに師事。1963年よりシュタルケル教授の助手を務める。同年ミュンヘン国際コンクールで第2位、ブダペストでのカザルス国際コンクールで第1位入賞を果たし、以後内外での本格的な活動を開始。現在に至るまで、日本、北米、ヨーロッパ各地、オーストラリア、中南米など世界各地で定期的に招かれ、オーケストラとの共演、リサイタルを行っている。共演した主なオーケストラには、ボストン響、アメリカ響、モントリオール響、バンクーバー響、トロント響、ロンドン・フィルハーモニア管、スイス・ロマン管、ライブ・ツィヒ・ゲヴァントハウス管、ウィーン響、ドレスデン・フィル、チェコ・フィル、プラハ響、ローマ・サンタチェチリア管など、枚挙に暇がない。サントリーホールに於いて、「埴剛プロデュース」と題するリサイタルシリーズも毎年開催、意欲的なプログラミングが注目されている。パリでのロストロポーヴィチ国際チェロコンクール、ミュンヘン国際コンクールなど多くの国際コンクールの審査にもしばしば招かれている。2009年秋の紫綬褒章を受章。また同年、天皇陛下御在位二十年記念式典にて御前演奏を行った。レコード録音における活躍も目ざましく、2010年には、演奏活動60周年記念盤「アンコール」（マイスターミュージック）がリリースされ、絶賛を浴びている。2001年より霧島国際音楽祭音楽監督。1988年秋より2006年春までインディアナ大学の教授を務め、2004年4月より桐朋学園大学学長の任にある。2007年9月、サントリーホール館長に就任。日本芸術院会員。

©山廣 康夫